

京都市ユースサービス協会 中期経営計画（令和7～8年度）

【協会のビジョン】若者の選択を応援し、互いに尊重し存在を認め合い、若者が安心して人と出会え、自分の楽しいが誰かとともにある社会

【中期アウトカム】各センターが機能を発揮し、他区域へのアウトリーチも行っており、総合相談・サポステ・ケア事業が連動して、若者を支援している。また、若者の声を大切にしたい取組や社会参加が進み、ユースワーカーの養成やユースサービスの普及が進んでいる。そして、自律した法人運営、収支均衡となり、人事評価や役割に応じた処遇で、働きやすい職場となっている。

事業面の成果

場づくり

【センター機能の全市展開】

各センターが、青少年の居場所・活動・相談の場であり、各テーマにも取り組むとともに、センターのない区域で中高生居場所等を月1回以上実施し、その経費も獲得できている。

課題支援

【ニーズに対応した機関連携】

総合相談とサポステ、社会的養護・ケアラー支援が連動し、さらにセンターとも連携し、一体的な運営になることで、若者支援につながっている。

社会参加

【若者の声を聴き、若者と共に取り組む】

日常の様々な場で若者の声を聴き、若者と共に計画や取組をつくるとともに、YCK等の若者グループの活動を支援できている。

ユースサービス普及

【理念や取組の普及とユースワーカーの養成】

定期的に、様々な広報で新情報を発信し、毎年、講師派遣等で取組を啓発でき、収入も得ている。

運営面の成果

組織体制

【適切な公益法人運営】

法令やガイドラインに沿って適切な法人運営ができており、財務面でも中期的収支均衡がとれている。また、ガバナンスの効く組織体制になっている。

資金繰り

【財源の多様化】

委託料だけに頼らずに、寄付や会費、助成金等の収入も増加しており、組織基盤を支えるための財源が確保できている。

人事給与

【人材の採用、育成】

若者を取り巻く社会課題や協会が抱える組織課題に対応できる人材を採用・育成できる制度が構築できている。

【成果を出すための配置と評価】

事業面で成果を出すために職員の能力を発揮できる人事配置を行っている。また、能力や成果に応じた評価制度の運用ができる状態になっている。

【働きやすい職場環境づくり】

職員が協会に誇りを持って働いており、自身の能力や待遇に納得して働くことができている。また、自身のキャリアパスを描くことができる環境になっている。